

ひたちなか市の環境を良くする会 会報

『 創刊号 』

会報の名称募集 会報の名称を募集しています。親しみやすい名称大歓迎です！
会員であるかないかにかかわらず、平成21年4月30日(土)までに、事務局(4面に記載)へ奮ってご応募ください。



本間市長(左)と対談する渡辺会長(中)、栗田副会長(右)

渡辺会長、栗田副会長が本間市長と対談
ひたちなか市の環境を良くする会設立一周年、会報創刊を記念して

ひたちなか市本間源基市長とひたちなか市の環境を良くする会の渡辺寛
会長、栗田裕子副会長が一月二十二日(木)市長室で対談を行いました。
本会が発足して約一年、活動状況について報告し、環境にまつわる情勢な
どについて意見を交わしました。

最初に、渡辺会長から設立総会後
の会員の参加状況、ごみ問題、温暖
化防止、自然環境の三つの分科会活

動と環境学習、イベント、広報の三
委員会活動、今年度は四回開催した
全体の調和を図るための意見交換
会や本会の最初の対外事業として
十二月に開催した「家庭の省エネ講
座」などについて報告しました。

本間市長からは、講座の講師を会
員が行えるほど多様な人が参加し
ていることへの驚き、色々な意見や
目的を持って環境問題に取り組ん
でいる市民や団体を取りまとめ、活
動を築き上げていくことの苦労に
対しねぎらいの言葉がありました。

渡辺会長は、誰にでも入会できる
会なので様々な議論を重ね、環境を
保全するという基本的な方向を合
わせ、満足感が得られるような活動
を行っていききたいと抱負を述べま
した。

本間市長は、環境問題の原因や影
響について様々な視点での意見が
あるが、今、危機感を持って環境問
題に取り組むことが次の世代への
責務であり、できることを積み重ね
ていくことが重要と、レジ袋削減



設立総会の様子(H20.3.22)

運動や学校での環境学習副読本の
活用など本市の例を挙げて話をさ
れました。

栗田副会長は、環境を守ることは
いのちを守ることであり、子どもを
守ること。子どもが変われば大人も
変わる。子どもたちが学校などで学
んだことを家庭に持ち帰ることで
環境保全行動の輪が広がればと話
しました。

この後、「もったいない」という
言葉に象徴される先人の知恵は、環
境問題克服の手本でもあり、核家族
化が進行した現代にあって、その知
恵を復活させ継承していくことの
必要性などに話題が及び、当初予定
していた三十分の時間を十五分も
オーバーする熱のこもった対談と
なりました。

活動の報告

(1) 分科会からの報告

ごみ問題分科会

ごみ問題では、家庭や事業所から出るゴミを種類ごとに分けて出すことが最も大事なことです。「分ければ資源、混ぜればただのゴミ」と言われるゆえんです。

市のごみ総量・資源回収量は「ごみ処理基本計画」によると平成14年度(19年度まで)毎年減少していましたが、ごみ処理事業費は17年度で20億5千万円以上を要しており、今後家庭系ごみは増加が見込まれています。

当分科会では、会議のほか、11月22日に水戸市岩根町のたい肥作り

ひたちなか市の環境を良くする会は、市民、民間団体、事業者及び市が互いに協力し、より多くの市民や事業者が、身近な自然や環境を大切にすることを育むとともに、環境保全行動の定着を図るため設立されました。本会では、10名で構成する役員会の下に、ごみ問題、温暖化防止及び自然環境の3つの分科会を設け、会員は希望する分科会に参加しています。また、この分科会より2名ずつ選出された6名と役員3名で構成する環境学習、イベント及び広報の3つの委員会を設けています。さらに、会員全体の意見調整と調和を図るため、全体の意見交換会を随時開催しています。



木材チップたい肥化施設(水戸市)

を、1月21日には勝田清掃センター、資源リサイクルセンター、最終処分場の見学を行い、また3月10日には自治会での資源回収の様子を見学する予定です。

ごみ対策は、焼却・埋立を脱却し、リサイクル・資源化へシフトして、ゴミを限りなくゼロに近づける努力を継続し、安全安心の環境づくりを目指すべきと考えます。その方策として、分別の徹底、正しい分別によるリユース・リサイクルを進める。ゴミの減量化を進めさせる(家庭・学校・外食産業等からの生ごみのたい肥化、養鶏・畜産農家からの糞尿や、木材・剪定枝・植物等のバイオマス発電)などを議論して

います。ゴミは、人間の生活に伴って発生します。問題の根本的な解決は、個々人の意思・意識と行動にかかっているのです。

温暖化防止分科会

昨年6月に分科会がスタート。

今年度のテーマは「家庭でできる省エネ対策」です。まず「自ら」と10月に「環境家計簿から考える温暖化防止」を企画しました。各家庭の消費エネルギーデータを毎月記入し、各自が生活を見直すことから進めています。また「広く伝えたい」と環境学習委員会に「家庭の省エネ講座」を提案し、全体意見交換会でも「ミニ環境家計簿講座」を企画しました。少しずつ「温暖化防止の輪」を広げていきます。

昨今、環境問題は身近になりつつありますが、この情報化社会では知識を得る近道になってはいるものの、その具体策は各自・各地域・各企業に委ねられる部分が大きいと感じます。共に学び、人がつながり、温暖化防止を具体的に進める場の広がりこそが必要です。私たちの分



凍結している滝



凍結していない滝

右の写真は、年は違いますが同じ時期(1月)に撮られた大子町の「袋田の滝」です。

直ちに地球温暖化が原因と断定はできませんが、近年は暖冬傾向が続ぎ、名瀑「袋田の滝」も凍結しないことが多くなりました。(写真提供 大子町)

科会も「知る・伝える・つながる場」のひとつとなり、市民の皆さんとつながり、生活者の視点から社会の仕組みへと、その輪を広げていけたらと思っています。

来年度テーマは「エコドライブ」「フードマイレージから温暖化防止を考える」です。誰にでも入会できる会なので、このひたちなかには「温暖化防止の輪」を皆さんと一緒に広げていきましょう。



資源リサイクルセンターの視察

自然環境分科会

当分科会は対象が広範囲であるため、「緑の創出・保全」「生物の多様性、生育環境の創出・保全」「水の涵養・保全」の3つの作業部会を立ち上げ、取り組むテーマについて議論を重ねています。

議論をする中で、市の緑事情、緑地の維持管理手法、市内のビオトープや湧水の位置、市内の河川と水質、上水ができるまでの仕組みなど行政や会員からの資料提供を受け、予備知識を深めました。

これまでに取り組みたいこととして、植樹・植林、次世代の桜の名所づくり、緑地のメンテナンスの仕組みづくり、花いっぱい運動、休耕田や湧水を活用したビオトープづくり、自然の市勢調査、自然観察会、家庭での生活排水対策の普及、市民参加の河川観察会や水質調査(パックテストによる)などが提案されています。

分科会では、11月に多良崎城跡と新川の視察を会員提案のチェックリストをもとに行いました。今後、



多良崎城跡の視察



市の北部を流れる新川

良好な緑地を保全していくための管理手法を見出せればと考えています。また、これからの予定として、浄水場での勉強会を行うほか、市民参加の自然観察会などを考えています。

より多くの市民がひたちなか市の貴重な自然に気づき、次世代に継承することができるよう活動を進めたいと思っています。

(2) 委員会の活動より

3つの委員会は、それぞれ次のような活動をしています。

環境学習委員会は、各分科会から提案された講座や学習会などを企画・調整・実行する役割を担い、今年度は「家庭の省エネ講座」を実施しました。

イベント委員会は、啓発事業や活動成果の発表などの事業を企画・実行する役割を担い、今年度は市と共催により、消費生活展にブースを設け「できることからはじめよう」をテーマに白熱電球と電球型蛍光ラ



ンプの違いを体験してもらい省エネ電球普及の啓発を行いました。また、環境シンポジウムを開催し、小学校2校、会員1団体、企業1社が環境を保全する取組事例の発表をしました。

広報委員会は、会報の編集・発行、講座やイベントなどの広報を行うほか、ホームページ開設の調査、検討をしています。

(3) 全体意見交換会

今年度は、会が発足して間もないため、会員相互の「顔合わせ・腹合わせ」が十分行えるよう、これまでに会員全体による意見交換会を4回開催しました。

議題は、会の活動内容、組織機構、会員交流・情報発信、分科会及び委員会の活動内容などです。

毎回活発な意見交換が行われましたが、役員会や分科会では、意見交換会での意見を反映させ、会の運営・活動を進めてきました。

現在の会員数(総数5326名)

- ・ 個人会員 41名
- ・ 家族会員 14家族(27名)
- ・ 団体会員 13団体(1023名)
- ・ 事業所会員 7社(4235名)

~家庭でできる温暖化対策10の取り組み~

できるものから始めてみよう!

- 1 冷房の温度を1 高く,暖房の温度を1 低く設定する
- 2 週2日車の運転をやめる
- 3 1日5分間のアイドリングストップを行う
- 4 機能上支障のない機器をコンセントから抜いておく(待機電力の削減)
- 5 シャワーを1日1分家族全員が減らす
- 6 風呂の残り湯を洗濯に使いまわす
- 7 ジャーの保温を止める
- 8 家族が同じ部屋で団らんし,暖房と照明の利用を2割減らす
- 9 買い物袋を持ち歩き,省包装の野菜を選ぶ
- 10 テレビ番組を選び,1日1時間テレビ利用を減らす

『家庭の省エネ講座』より



環境講座の様子(H20.12.7)

環境講座を開催
 12月7日、市文化会館大会議室で市と共催により環境講座『家庭の省エネ講座』を開催しました。
 会場には約50名の参加者が集まり、本会の会員でもある省エネルギー普及指導員の青木通彦さんを講師に迎え、エネルギー消費と地球温暖化や省エネについて講義していただきました。
 その後の質疑応答でも、青木さんが丁寧に回答していただきました。また、終了後のアンケート結果を見ると、「講座を聞いて省エネに取り組んでみようと思う」、「省エネ講座を今後も継続して欲しい」といった意見が多く、参加者が積極的に省エネや地球温暖化防止に取り組み契機になったと感じました。

環境シンポジウム開く！

4者が活動事例を発表

2月26日、市文化会館小ホールで市と共催により、市民や事業者の環境保全行動の意欲を高めることを目的に環境シンポジウムを開催しました。

発表は、阿字ヶ浦小学校4年生が「エコキッズプロジェクト」阿字ヶ浦子海を守り隊」の活動について、地元海岸の清掃・ごみの分別を通じて地域での清掃活動や3Rについて調べ、自作ポスターによる啓発、家庭や学校での3Rの実践の大切さなどを発表しました。次に、前渡小学校5・6年生が「ぼたるの育つ環境を守る」と題し、学校の裏山に整備したビオトープ「ぼたるの森」での生物観察や、ぼたるの放流を通じた生育環境を守ることの大切さなどについて発表しました。団体は、ワンネス・エコ・ひとちなか、環境劇で楽しく伝える「白雪姫のりんご」を、魔法使いの毒りんごを例えに電磁波や有害紫外線、森林伐採などの被害をユーモアを交え分かりやすく伝えました。

企業は、勝田環境株式会社「ごみのスゴミ」資源・四源・市減」とグループ企業での廃プラスチックの固形化燃料製造、陶磁器やガラスを破砕し遊歩道などの化粧材への再利用、廃材や剪定枝をチップ化しバイオマス発電の燃料やたい肥への再利用、廃食用油からバイオディーゼル燃料の精製や利用状況の

紹介など、資源循環の事業活動について発表しました。
 最後に茨城大学の原口弥生先生が、子どもの発信力は大人や社会を動かす、「探検、発見、ほっとけん」のように活動につながることを重要、劇の持つ力を再認識した。市内の企業が市民に見えるところで活動することが全体の環境保全意識を高めるなどと講評しました。

みんなの発表の様子



ワンネス・エコ・ひとちなか



勝田環境株



前渡小



阿字ヶ浦小

発行：ひとちなか市の環境を良くする会
 編集：広報委員会

事務局：ひとちなか市
 市民生活部環境保全課
 住所：〒312-8501
 ひとちなか市東石川
 2-10-1
 TEL: 029-273-0111 内 6211
 FAX: 029-275-6771
 E-MAIL: kankyo@city.hitachinaka.ibaraki.jp

会員募集

本会では、会員を募集しています。市内に在住、通勤、通学している方なら誰でも入会できます。(個人又は家族)
 また、市内で活動している団体、事業所も会員になれます。
 ・年会費(1口以上)
 個人・家族会員 1口 500円
 団体会員 1口 1,000円
 事業所会員 1口 2,000円
 詳細は事務局まで

今後の予定

平成21年度総会の開催
 日時：4月11日(土) 18時～
 場所：ワークプラザ勝田大会議室
 総会終了後、立食形式の懇親会を予定しています。(会費1,500円予定)
 新たに会員になろうとする方も是非総会にご参加ください。